

28年間にわたる歯みがき講習会

○山地良子, 山地正樹, 和田遥¹
 (ヤマヂ歯科クリニック,
¹はしもと小児・矯正歯科医院)

【目的】北小倉小学校全校児童対象に、28年間にわたり毎年6月、ヤマヂ歯科クリニックスタッフ全員で半日掛けて歯みがき講習会を行った。年齢に応じた児童の歯みがき習慣の定着と、虫歯予防、全身の健康の獲得を目指した。

【方法】午前中2時間目、3時間目に3班に分かれ1学年毎に、歯科医師、歯科衛生士、歯科助手がチームを組み歯科医師と歯科衛生士が各学年に対応した講話をした後口腔内染め出し、磨けてない部位を各自鏡で観察し、口腔イラストに赤鉛筆でチェックをしてもらった。スタッフが再度磨けてない部位のチェックをし、歯みがき実践をした。5年生6年生にはフロスの指導も行った。近年はフッ素洗口、口の体操も取り入れた。終了後は反省会をし、翌年の参考とした。

【結果】28年間の歯みがき講習会を継続して行った結果、むし歯の減少と共に、インフルエンザや嘔吐下痢に罹る児童が減少した。歯みがき講習会の後は各学年で、歯みがき講習会の感想文を書いてもらい、児童の歯みがきが継続出来るよう学校の昼休みには歯みがきを促す放送をしている。平成14年にはヤマヂ歯科クリニックとして北九州市学校歯科保健会より表彰され、平成17年には北小倉小学校が全国学校歯科保健会より最優秀校として文部科学大臣賞を受賞した。

【考察】小学生の時に毎年歯みがき講習会を受けることにより、歯みがきの習慣化と共に、口腔に関する興味を持ってもらうことが出来た。フッ素洗口や口の体操を指導することによりインフルエンザや、嘔吐下痢の症状を発症する人数が減少した。北小倉小学校で歯みがき講習会を28年間継続出来たのは、北小倉小学校の歴代の校長先生、養護教員及び各学年の先生方の協力が得られて出来た。歯みがき講習会の他、学校歯科医、学校医や市民センター館長と共に、年3回の健康保険委員会を行い児童代表や先生と安全、健康についての懇談をしている。

当診療所における小児在宅歯科医療の取り組み

○石倉行男, 寺田ハルカ, 道脇信恵
 (医療法人発達歯科会おがた小児歯科医院)

【緒言】

在宅での医療的ケアが必要な子どもの増加に伴い、歯科的なサポートの必要性も増してきている。今後は、小児歯科においても小児在宅歯科医療への積極的な取り組みが求められると考える。今回、当診療所にて小児在宅歯科医療を行っている症例について報告し、地域の中でのかかりつけ歯科における小児在宅歯科医療の取り組みについて考察する。本報告にあたっては保護者に十分な説明をした後、書面にて承諾を得た。

【症例】

症例1：4歳1か月，女児，脳性麻痺
 症例2：3歳5か月，女児，脳性麻痺
 症例3：11歳8か月，男児，多発奇形

【考察】

小児在宅歯科医療の対象は、主に重度の肢体不自由と重度の知的障害が重複した重症心身障害児である。高齢者においては地域包括ケアシステムの整備が進み、訪問歯科診療での対応は充実してきていると思われる。しかし、前述の重度の障害を持った子どもたちへの訪問診療はまだ十分に普及していないのが現状で、小児歯科や障害者歯科などの関連学会においても取り組みが始まったばかりである。小児在宅患者の口腔衛生管理は、かかりつけ歯科が行い、訪問診療では対応困難な治療が必要な場合は、必要に応じて後方支援病院と連携する仕組みが重要である。子どもの成長に応じた対応と家族を支援する視点が大切で、小児歯科の専門職が果たす役割は大きいと考える。当診療所でも、歯科訪問器材を整備し、訪問時間を確保して、可能な範囲で小児在宅歯科医療に取り組んでいる。しかし、マンパワーの確保や外来診療とのバランスを考えた訪問スケジュールの設定など課題もある。今後も課題への対策を考えながら、小児在宅歯科医療を続けていき、シームレスな歯科管理を長期的に行うシステムを構築していきたい。